

2019年11月24日(日)朝10:10～ 主の降誕前第5、自由交歓会等
11月第4収穫感謝共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**弱り果てた群衆への憐れみ**(36～節)

聖書：マタイ 9章35～38節

<口語訳>

新約聖書14～ 頁

マタイ 9章35～38節

<新共同訳>

新約聖書17～ 頁

マタイ 9章35～38節

<新改訳第3版>

新約聖書17～ 頁

マタイ 9章35～38節

<塚本訳>

新約聖書92～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:35～38**は、「**御子イエス・キリスト様**」の目に、「『**羊飼いのいない羊**』のような、『**群衆**』」がかawaiiそうに見え、「**弟子たち**」に、「**刈り入れは多いが、働き手が少ない**」、「**刈り入れの主人に、刈り入れのため(多くの)働き手を送られるよう、お願いしなさい(祈りなさい)**」と命じられた箇所です。
- ⇒「**収穫(かりいれ)**」は、夏の意味で、麦の収穫。
- ⇒**OR師**によると、**マタイ4:23～25**と**ルカ8:1～4**に続いて、今日の箇所が、3回目のガリラヤ伝道でした。
- ⇒「**かawaiiそう**」は、「**心の奥底からあわれみ、同情する**」という意味で、ヘブル語のへセドにあたり、相手の立場に立って片腹痛い思い・同情をすることです(バークレー)。腹の意味。
- ⇒主の痛みを伴う憐れみに与り、祈るのです。

本論；

◇本日、**マタイ書9章35～38節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ9章35～38節**；使徒**マタイ**は、**神の憐れみ**が、主の弟子たちを「**飼うものがない羊**」のもとへ「**派遣された**」(38節)のです。

◇**35～38節**；塚本訳◆**十二弟子の派遣**

「 35 それからイエスは町や村をのこらず回りながら、その礼拝堂で教え、御国の福音を説き、またありとあらゆる病気や煩いをなおされた。

36 そして『羊飼いのいない羊が』疲れきって、(地に)倒れている『ような』群衆を見られて、かわいそうに思われた。

37 そこで弟子たちに言われる、「刈入れは多いが、働き手は少ない。

38 だから刈入れの主人に、刈入れのため(多くの)働き手を送られるよう、お願いしなさい。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**35～38節**；「それから」、「イエスは町や村をのこらず回りながら、その礼拝堂で教え、

御国の福音を説き、またありとあらゆる病気や
煩いをなおされた(35)」、「そして『羊飼いの
いない羊が』疲れきって、(地に)倒れている
『ような』群衆を見られて、かわいそうに
思われた(36)」、「そこで弟子たちに言われる」、
「刈入れは多いが、働き手は少ない(37)」、「だ
から」、「刈入れの主人に、刈入れのため(多く
の)働き手を送られるよう、お願いしなさい
(38)」と、「そして『羊飼いのいない羊が』疲れ
きって、(地に)倒れている『ような』群衆を
見られて、かわいそうに思われ」、弟子たちを
「羊のもとへ」、「主の憐れみと意思をもって」、
「祈る」ため、派遣されました。

⇒「それから」は、「9:34 あれは悪鬼どもの頭
(である悪魔)を使って悪鬼を追い出している
のだ」と、パリサイ人たちが非難した直後を
意味します。主の目は、パリサイ人たちでは
なく、「そして『羊飼いのいない羊が』疲れきっ
て、(地に)倒れている『ような』群衆を見られ
て」、「かわいそうに思われた」のです。

⇒主は、群衆の心の中をご欄になっていたので、
弟子たちの視線も、同じ方向を見させました。

⇒次に、「刈入れは多いが、働き手は少ない」ので、「刈入れの主人に、刈入れのため(多くの)働き手を送られるよう、お願いしなさい」と、主とともに出かけて、「天の父なる神」に、一緒に「お願いをしてほしい(祈ってほしい)」と、目的をもった同伴を求められました。

⇒教会は、**マタイ28:19～20**にあるように、**神の宣教命令**が与えられています。宣教しない教会は存在しませんが、目的のない宣教も求められていません。しかも、宣教はひとりでするものではなく、教会と教会の主とともに行うものです。

⇒主日の説教・宣教・宣告を聞いて、主とともに『飼うもののない羊』のところへ派遣されて行くのですし、また日々においては、主のことばに朝ごとに傾聴して、日常の生活の場に遣わされて行きます。説教するためではなく、「相手の心を見て、傾聴し、祈る」ために、食卓に、職場に、遊びの場に遣わされます。

⇒派遣される上で、欠かせないのは、主のことばを聴くとともに、「主の憐れみの心」をもって、生きていることです。

⇒**KT師**は、牧師も、キリスト者も、礼拝の人数とか献金の額等に目が向いて、「失われた羊」の心や思いに目が向いていないのではと、ご指摘です。

⇒先週金曜日、訪問看護を受けましたが、「私は仏教徒だけども、マザーテレサの本を最近読んで感動した。彼女のように祈ってもいいのですね。」と、問われました。

⇒また、私が牧師として毎日お祈りしているのかとも、問われました。

⇒両方の問いに「はい」と、真摯に答えましたが、**御子イエス・キリスト様**のように、「そして『羊飼いのいない羊が』疲れきって、(地に)倒れている『ような』群衆を見られて、かわいそうに思われた」という思いで、日々祈っているかと、問われると心もたない。

⇒**A.W.バークレー**は、**御子イエス・キリスト様**の5つの「**かわいそう・あわれみ**」を上げています。①この世の苦痛を「**かわいそう・あわれまれた**」、②この世の悲しみを「**かわいそう・あわれまれた**」、③この世の飢えを「**かわいそう・あわれまれた**」、④この世の孤独を

「**かわいそう・あわれまれた**」、⑤この世の
困惑を「**かわいそう・あわれまれた**」と(386頁)。
⇒実際、主は、「イエスは町や村をのこらず回り
ながら、その礼拝堂で教え、御国の福音を
説き、またありとあらゆる病気や煩いをなおさ
れた」のです。

⇒**A.W.バークレー**は、宗教指導者を痛烈に攻撃
した、「**ミルトン**」の詩「**リシダス**」を紹介して
います。

盲目の口！

かれらは羊飼いが心得ているはずの

杖の使い方も知らない

かららは我欲と虚栄にとらわれて

笛を吹いては不快な音を出している

羊がうえて見上げてても

食物を与えることもない

⇒「【新改訳2017】ルカ 18:13 一方、取税人は
遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、
自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の
私を**あわれんで**ください。』」、

⇒先ず、悔い改めて祈りましょう。どう答えるか
でなく、主とどう生きるかを求めて祈りましょう。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:35～38**は、「**御子イエス・キリスト様**」の目に、「『**羊飼いのいない羊**』のような、『**群衆**』」がかawaiiそうに見え、「**弟子たち**」に、「**刈り入れは多いが、働き手が少ない**」、「**刈り入れの主人に、刈り入れのため(多くの)働き手を送られるよう、お願いしなさい(祈りなさい)**」と命じられた箇所です。
- ⇒「**収穫(かりいれ)**」は、夏の意味で、麦の収穫。
- ⇒**OR師**によると、**マタイ4:23～25**と**ルカ8:1～4**に続いて、今日の箇所が、3回目のガリラヤ伝道でした。
- ⇒「**かawaiiそう**」は、「**心の奥底からあわれみ、同情する**」という意味で、ヘブル語のへセドにあたり、相手の立場に立って片腹痛い思い・同情をすることです(バークレー)。腹の意味。

⇒主の痛みを伴う憐れみに与り、祈るのです。
⇒「イエスは町や村をのこらず回りながら、その
礼拝堂で教え、御国の福音を説き、またあり
とあらゆる病気や煩いをなおされた」、そして、
「そして『羊飼いのいない羊が』疲れきって、
(地に)倒れている『ような』群衆を見られて、
かわいそうに思われた」と、主の目線には、
「『羊飼いのいない羊が』疲れきって、(地に)
倒れている『ような』群衆」があり、一見元気
そうですが、悩みや孤独を内面に隠しもって
いるのを見抜いて、かわいそうに思われたの
です。

⇒「**いやされた2人の盲人**」、「**悪鬼につかれた
啞(おし)**」(塚本訳)も、「**神の御子イエス・
キリスト様**」の「**収穫(かりいれ)**」に与り、
「**かわいそう・あわれみ**」を受けました。

⇒欠陥だらけの人々、群衆のような存在の者が、
主の弟子とされているのです。

⇒刈入れは多いが、働き手は少ないが、主の
おことばで、「刈入れの主人に、刈入れのため
(多くの)働き手を送られるよう、お願いしな
さい」と、「**弱り果てた群衆(36節)**」がいます。

⇒塚本訳 ローマ9:15～16

15 その証拠には、神は(かつて)モーセにこう言われている、『わたしは憐れみたい者を憐れみ、慈悲をほどこしたい者に慈悲をほどこす』と。

16 従って(憐れみも慈悲も、)それは(人間の)願望にも努力にもよらず、ただ神の憐れみによるのである。

⇒**神の愛(あわれみ)**は、無償で、且高価です。必要以上に自分を高く評価すると傲慢になりますが、極端に自分を低く評価するのも、愛の主を低く見積もらせることになるのです。

⇒主の命令のおことばなしに主の御用はできませんから、主に先ず聴き、聴いたら、「はい」と、応答し、目の前にある主が「**弱り果てた群衆**」を「**憐れむ(36節)**」のを見て、弟子として祈りに参加し、主がせよと仰せのことをさせていただきましょう。